



春をこしとほぐ お寺の宝

— 専修寺文化財調査の報告 —

真宗高田派本山
専修寺宝物館

燈炬殿

2025

3.13 **木** ▶ 5.11 **日** 10:00~15:30 (入館は15:00まで)
休館日: 毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日)

観覧料: 一般1,000(900)円、中高生500(400)円、小学生以下無料 ※ ()内は10名以上の団体料金

お問い合わせ: 真宗高田派本山専修寺 TEL059-232-7234 (総合案内所)

専修寺の文化財調査

専修寺では、学習院大学文学部の美術史学専攻の皆さまに過去四回にわたって悉皆調査を依頼してまいりました。調査で見出された新発見の宝物をはじめとする調査成果の一部を御覧いただきます。

本展では、「春」をテーマに、伝来が明確な宝物を中心に、春らしいモチーフがあらわされた作品を厳選して展示いたしました。江戸時代の京都画壇を牽引した円山応挙による「漁夫図」、円山派三代目の円山応震「嵐峡春景図」は、いずれも調査を通じて見出された新発見の作品です。これらをはじめとする華麗な作品は、専修寺が京都の宮家との強いつながりを持っていたことを物語っています。

また調査の中で注目されたのは、専修寺に数多く所蔵される「おもてなし」の陶磁器です。色鮮やかな酒器、懐石皿や大皿など、春を彩る器の優美なデザインにご注目ください。専修寺に大切に受け継がれてきた雅な文化の息吹を、存分にご堪能いただけます。



まるやまおうきよ
円山応挙 筆
漁夫図
ぎよふず

絹本着色 江戸時代・18世紀後半
江戸時代後期の京都で活躍した、円山四条派の祖、円山応挙の新発見の作品です。



まるやまおうしん
円山応震 筆
嵐峡春景図
らんぎょうしゅんけいず

絹本着色 江戸時代・19世紀前半
円山四条派の三代目の応震の作。
本作品も調査によって初めて見いただきました。



くめの ていたろう
象野縮太郎 作
花鳥七宝花瓶七宝
かちょうしっぽうかびん

明治時代・20世紀
象野縮太郎が開発した青磁釉が映える華やかな作品です。

VRシアター上映

SENJUJI360、OJODOを日替りで上映

上映スケジュール: 10:00/10:30/11:00/11:30/13:00/13:30/14:00/14:30/15:00

※予約優先制 (WEBまたはお電話でご予約ください) ※予約枠に空きがあればご予約がなくても入館していただけます

予約サイト



真宗高田派本山
専修寺宝物館

燈炬殿

〒514-0114 三重県津市一身田町2819



開館時間: 10:00~15:30 (入館は15:00まで) 休館日: 毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日)
観覧料: 一般1,000(900)円、中高生500(400)円、小学生以下無料 ※ ()内は10名以上の団体料金

お問い合わせ: 真宗高田派本山専修寺 TEL059-232-7234 (総合案内所)

燈炬殿への入館は総合案内所での受付の後係りがご案内いたします。

